

まなびや

中野重治（一九〇二～七九）作

『梨の花』

ふる里への思い

▼左の写真は、明治42年9月、当時の皇太子殿下（後の大正天皇）が丸岡城蹟を行啓された時の、当日の平章小学校前の様子です。当時の様子は、「梨の花」にも描かれています。

【展示室Aで公開中】

発見！皇太子殿下丸岡城蹟行啓写真

明治42年9～10月岐阜・北陸地方を巡啓



中野重治は、福井県坂井郡高棕村（現坂井市丸岡町）に生まれた文学者です。昭和初期にプロレタリア文学の新時代を担い、戦後は故郷の言葉や暮らしを書いた小説「梨の花」などの名作を遺しました。重治は、「ふる里」について「そこから離れたもの、離れて時のたったもの、そういう人間には何となくふる里が美しいものに見える。懐かしいものに思い返される」と述べています。▼岩波文庫（解説Ⅱ寺田透）【誰しも幼い時の記憶はある。が、作者のそれは格別のものだ。読者はその克明な描写と温もりある越前の言葉づかいによって、良平少年とともに北陸の田舎にいたことに気づく（略）】



『梨の花』でも貴重なキーワード

伝えて残したい

福井弁

やぎ～あ？

年を重ね、また県外で故郷を離れて暮らす人々には、たまらない郷愁をそそる

学校であるある
実は『福井弁』？

▼内ズック・外ズック

「ズック汚れてもたで、そろそろ洗わなあかんは」「ズック忘れつんたく体育の先生に怒られてまうは」【ズックとは、学校で履く運動靴のことです。福井ではズックは全国共通だと思っています。他県では、内履き・外履きが一般的ですね。】

▼机をあげる・さげる

「さあ、机さげて掃除しよう」掃除の時間が始まる前に机さげましたよね？【教室

の半分の掃除が終わったから机をあげて、残り半分を掃除して机を並べる。この「机をあげる・さげる（運ぶ・動かす）」も福井独特のようですよ。】

▼字がじじむ

「先生、字じじんづんたう」「なんやってこれ、上手に書けたのにじじんでもてるが」【こちらは、想像できませんね「にじむ」ことです。】

▼ノートがつまる

「ノートがつまつんたう新しいの買つてこうさ」「早からノートつまつたんか勉強しすぎやがあ」「ノートを切り切ることです。他県では、「終わる」「埋まる」「いっぱいになる」という表現ですね。」

▼つんつんにする

「うわ、芯折れつんたう、つんつんにしよつさ」「やめときねやうつんつんにしたら字書けんようなつてまうが」【福井では鉛筆に限らず、尖ったものを指す時に「つんつん」という表現を使います。】

【村上姉妹の福井弁講座参照】